



# 飯能ロータリークラブ会報

桜の中央公園と天覧山

© photo by Hiroyuki Maejima



## 世界に希望を生み出そう

RI会長 **ゴードン R. マッキナリー**  
 第2570地区ガバナー **高丹 秀篤**  
 第3グループガバナー補佐 **齋藤 栄作**

### 希望を語ろう We are Rotary, together

## 第3119例会 2024. 5. 29

—— 雑 誌 月 間 ——

天 候 晴 (NO. 60-48)

会 長 馬場正春 幹 事 神田敬文

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当 番 岩泉君、皆川君

例会場：ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎ (042) 975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎ (042) 973-1661 FAX (042) 973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点 鐘 馬場会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・卓 話 根本寛也様



#### 【会長報告】

5/18・19、親睦活動委員会（天ヶ瀬委員長）担当の「親睦旅行」に行きまして。お天気も良く楽しい見学ができました。パスト会長の皆様にはお気遣いを頂き有難うございました。初日「足立美術館」で素晴らしい庭園を見て、「松江城」天守にも登りましたが階段が怖くて結構足がきつかったです。2日目「出雲大社」。説明が非常に分かり易かったバスガイドさんには、細田(伴)パスト会長が粹なお計らいでお土産を贈り、バスの中で感謝状を読み上げられました。

5/26(日)は大野(康)委員長の下、「飯能新緑ツーデーマーチ」に参加、10キロコースを歩いてきました。「完歩証」を貰わないと懇親会出席はダメ、と今回は神田幹事から厳しく言われたので（今回初めて）本当に10キロ歩きました。大崎委員長よりも歩数が多かったのは、僕の方が足が短かったから、ということが判明しました。

本日の講師、根本理事長のスピーチは素晴らしいです。是非よろしくお願ひします。

#### 【幹事報告】

大崎副幹事

例会後、第6回パスト会長会議。6/5第13回役員理事会11時半～。6/19・26クラ

ブ協議会。日程変更は幹事まで。第11回理事会議事録配付。

◎例会変更のお知らせ

◇入間南RC

- ・ 6/18(火)「こども太鼓体験会」に例会変更  
点鐘10時「藤沢地区体育館」
- ・ 6/25(火)「狭山ヶ丘学園インターアクトクラブ  
創立30周年記念式典 交換学生壮行会  
新旧役員慰労会」に振替  
点鐘18時半「プリーツ・I」

#### 【委員会報告】

◎環境保全委員会 大野(康)君

26日(日)「飯能新緑ツーデーマーチ」10キロコース(事前申込15名、当日参加11名)元気に歩いて参りました。来年度担当の鳥居会員はご夫妻で参加。お疲れさまでした。

◎次年度幹事 大崎君

パスト会長に「細則変更」「年会費改定」に関する資料(6/5第1回理事会にて使用)を配付しました。

#### 【出席報告】無届欠席2・MU0 大野(泰)出席向上委員長

会 員 数		当 日	
全 数	対 象	出席数	出席率
65名	4名	57名	87.69%

#### 【ロータリーの友】

福島雑誌委員長

5月号より横組P5、RI会長「メンタルヘルス」について。P18～特集「能登半島地震」

キッチンカーを使った支援の取組み（大阪中央RC）等。縦組P18「四つのテスト」の「真実」は真実か？ P21「うちの子」うちの愛犬「アラン君」が昨年投稿してやっと採用されました。とても可愛い息子です。

## 【SAA報告】

### ◎ニコニコBOX

・根本理事長、本日は卓話よろしくお願ひ致します。細田(吉)君、矢島(巖)君、吉島君、坂本君、馬場会長、中里(忠)副会長、森会長エレクト、神田幹事、川口SAA  
・妻の誕生日祝ひ有難うございました。志岐君本日計12,000円、累計額898,501円。  
◎5日例会当番は鎌田、安藤会員です。

## 【卓話】

講師紹介 大野(泰)出席向上委員長  
1988年生まれ。36歳。2017年6月、飯能JC入会、7年目。同期に加涌、齋藤、中川会員等。出身は鶴ヶ島市、現在は坂戸市在住。職業は保険代理店、事業再生コンサルティング。細田(吉)初代理事長はじめ歴代メンバーの前で緊張しているのではと思います。がしっかりと聴いて頂ければと思います。

## 地域課題の解決に向けて

公益社団法人 飯能青年会議所 第51代理事長  
根本寛也様

平素より「公益社団法人飯能青年会議所(飯能JC)」に対し、深いご理解と多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、本日は第3119例会にお招き頂き、卓話という貴重な機会を頂戴致しまして誠に有難うございます。引き続きのご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

本日の題目「地域課題の解決に向けて」は飯能JCでの活動の経験を通して、私が今抱えている〈夢〉を含めたものです。

2つございます。

1つ目は、地域課題を解決するビジネスを飯能日高にもっともっと増やしたいということです。それを実現する上で、1つの会社、1つの団体、1個人では成し得ることが難しい場合もございますので、いろいろな会社、いろいろな団体と手を取り合いながら一つになって地域課題を解決していくというビジョンを掲げております。

その背景にあるストーリーや思いはこのあとお伝えさせていただきます。

JCに入ったきっかけを申し上げます。前職では「武蔵野銀行」に居りまして、独立して保険代理店業を始めたタイミングで、日高にお住まいの関口政信先輩にお声掛け頂きました。銀行は新卒で入行して川越支店に配属され、丸3年、ひと通りの業務を習得させて頂



いた後、日高支店に異動。丸5年、銀行員として過ごしたタイミングで父が脳梗塞を発症したため、私は実家に戻りました。独立したものの銀行時代の年収よりも落ちてしまい、お金を稼ぐにはどうしようか、という時に関口先輩からお声掛け頂いたわけです。本来なら「西入間JC」に所属すべきところですが、銀行時代に川越、日高の企業さんにお世話になったこともあり、地元鶴ヶ島、坂戸の企業さんにもゆかりはありましたが、独立するのであれば全く新しい土地を拓けていった方が仕事に繋がるのではないかと、とのアドバイスを頂いて、「飯能JC」に入会させて頂いたという経緯です。

JCにはお金を稼ぐために入ったにもかかわらず全然仕事には繋がりませんし、宗教的な感じで、「何をやっている団体なのだろう」と思いつつ、ふわふわした状態で4年位すぐ経ってしまいました。

ただ、1つの出来事がきっかけで、お金を稼ぐことが目的の、〈利己的〉だったものから徐々にJCの本質的な意味が分かってきて、今では心の底から〈利他〉の精神で、社会のため、第三者のため、仲間のために頑張りたいと思うようになりました。ただ淡々と作業していたことも「これは何のためにやる活動なのか」「目の前の仕事はどういった成果に繋がるのか」というように、腹落ちさせながらできるようになりました。惰性でやっていたことも目的意識を念頭に置きながらやると「これは自己成長に繋がる」「自分が思い描けないところまで成長して挑戦できるのではないかと」と、心から思えるようになりました。JCが全てを私に与えてくれましたし、生まれ変わってももう一回JCに入るだろうな、と今は思っております。

その「JCスイッチ」が入ったのは2021年度経営資質向上委員会の委員長を拝命したのがきっかけでした。2021年はコロナ真っ只中。丸1年さまざまな制限のかかった年でした。世の中の生き方、働き方そのものが問われ、再定義されるようなタイミングでした。周りには潰れる会社さんもある中で、私が委員長職を通してやるべきことって何だろうかと、「運営方針」を書くのずっと腹落ちせずと考えていました。その時、腹落ちしたきっかけになった一文が「JC宣言」でした。

「日本の青年会議所は 希望をもたらす変革の起点として 輝く個性が調和する未来を描き 社会の課題を解決することで 持続可能な地域を創ることを誓う」。これをJCではセレモニーの時に唱和するのですが、この「社会の課題を解決する」そして「持続可能な地域を創る」、これがJCがやるべきことであって、委



員長をやるのであればこれを具現化する1年にしなければと思いました。

そしてその時に私が導き出したキーワードが「ソーシャルビジネス」と言われるものでした。〈ビジネス〉を通して社会課題を解決するというものです。歴史を振り返れば、いつの時代も〈ビジネス〉が世の中をより良く変革してくれてきたと感じます。戦前戦後も高度経済成長も、目の前のPCもスマホもZOOM会議も、世の中がより便利になってきたのは〈ビジネス〉の力があったからであろう。その意味で地域課題も〈ビジネス〉を通して解決できたら、より加速度的に解決するのではないか、と思いました。

「ソーシャルビジネス」の定義は「社会課題を解決するためにビジネスという手段を使う」ということです。

社会課題を解決している団体はたくさんあります。ボランティア、NPO、行政、JC、RC等。ただ、課題となるのは運営が寄付金や補助金等で賄われていて、そこが途絶えてしまうと良いことをやっても持続性が無くなってしまふという懸念です。そこで最近出てきたのが「ソーシャルビジネス」という考え方で、自社で売上利益をしっかりと出して、持続、自走していくというものです。

「世の中にある商売って全て〈ソーシャルビジネス〉なんじゃない？」ってよく言われます。それは正論なのですが、この図で説明しますと、タテ軸が問題の難易度、ヨコ軸が問題の普遍性です。曲線の内側、グレーの部分が今、世の中にあるいろいろな商売で、お金になり易いもの、持続可能性があるものです。左上の余白、取り残されている部分が、行政やボランティアの方々が担っている社会課題の領域で、行政も人員不足等の理由で課題が山積なわけです。この領域で今、ソーシャルビジネスの理念をもった事業者（普通の株式会社や合同会社が多い）が果敢にチャレンジされています。

一方で、似て非なる考えとして「CSV (Creating Shared Value: 共有価値の創造) 経営戦略」というのがあります。これはソーシャルビジネスとは目的と手段が逆で、目的が「稼ぐこと」で、手段が「社会課題(というネタを使わせてもらう)」というイメージです。社会課題が解決するという結果は同じですがその目的、どちらに主軸を置いているかが異なります。

私自身、事業再生の仕事をやらせて頂いていて、赤字の会社を黒字にしなければいけない流れなのですが、その時に意識しているのは実は「CSV経営」なのです。儲けるために社会課題も一緒に解決しながら事業再生できないか、という意識でやらせて頂いております。

JCの委員長時代のことに話に戻します。コロナ禍で苦しんでいる会社さんもありまし

たので、ちゃんと売上利益も起こしつつ社会課題も解決するというソーシャルビジネスの概念を、飯能日高でもっともっと拡げて浸透させたいなと感じていました。

3回の例会では、ソーシャルビジネスの定義、実際の導入方法、やり方などといったものをやりつつ、最後に、ソーシャルビジネスを実際にやられている会社を対象にした「ビジネスコンテスト」を立ち上げました。

写真：前方には審査員10名が着座。10名のうち5名はビジネスの判断がちゃんとできる方で、5名は社会課題、社会性をジャッジできる方(大学教授ほか)をお選びしました。後方には来賓、地元企業、行政、市民の方々が座っておられます。前に発表者の会社の方が居られます。ここで、地域のどんな課題を対象に事業をやっておられるのか、自社の強み、セールスポイント、PR、今後のビジョン等をプレゼンして頂きます。そのあとでそれに対して審査員10名は質疑応答も兼ねてヒントやアドバイスをプレゼンターの方に差し上げます。その事業者さんにより発展してもらうための〈場〉にして頂きたいと思い構築しました。そして表彰式。記念撮影の様子です。

私が委員長として担当した初年度の主催は「飯能JC」でしたが、2年目以降は「ひだかん実行委員会」という任意団体を立ち上げて、そこに外部の地元民間企業の方に入ってもらったり、城西大学の学生にもインターン、ボランティアとして参加して頂いたりして、現在委員は17名で、2年目、3年目を運営して今年が4年目になります。

「文化新聞」「埼玉新聞」に記事が掲載されました。多大なるご協力ご協賛を頂きまして「飯能日高テレビ」さんには当日撮影、編集をして頂き、YouTubeに動画をアップさせて頂いております。

何故この「ソーシャルひだかんファレンス」というビジネスコンテストを立ち上げたのかについてですが、キーワードは〈支援連携〉で、これを作りたいという思いでした。地元地域でソーシャルビジネスと言われる事業をされている会社のことを、行政の方や住民の方、地元企業の方に、まずは知って頂いて、「こんな素晴らしい事業があるのだったら皆で応援したい」「応援しよう」という枠組みを作りたいという思いがありました。

ねらいとしては、ソーシャルビジネス事業者がこの地域でより発展すればするほど、まちの課題も解決されて豊かなまちになるよねという絵を私は描いていました。まさしく、JCがやりたいことってこれなのではないかと解釈して作ったわけです。

まだ3年目で、いつ無くなってしまってもおかしくないような状況なのですが、今は冒頭に申し上げた大きな〈夢〉、目標、ビジョンがあります。それがこちらです。

「起業するなら日高市で」(飯能日高地域で)

このキャッチフレーズを基に、そんなまちをつくりたいと思っています。

志の高い、起業家の若い人達が「どこで起業しようか」といった時に、自然が豊かで、インフラが整っていてアクセスも良い「飯能日高で商売できたら最高だよ」と思ってもらえるまちにしたい。行政の方や関係諸団体と連携しながら、まずはインフラを整備したいと思っています。

ただ、来て頂いただけでは何も良くなりませんので、そのあとに、行政、商工会、金融機関の方々と連携しながら、「起業塾」のようなもの、起業家の卵を育成するような〈場〉を作れたらいいと思っています。

そして先程申し上げたように、事業が軌道に乗ってきたら、我々のビジネスコンテスト「ソーシャルひだかんフェレンス」で発表して頂き、地元の人達にもその会社を知って頂く。そして取引が増えれば増えるほど、地域課題の解決スピードもより上がります。そんな会社や起業家が増えれば増えるほど、まちは豊かになって、そして、そんな噂を聞きつけた人達はさらにまた都内の方から飯能日高を目指して来る…。

こういった好循環の絵を実際に実現できたら、本当にまちは良くなるし、おもしろい人や会社も増えて、すごい世界がつかれるのではないかと思います。

ここまでJCの活動を通しての私の〈夢〉を語ったわけですが、RCの皆様方と共有したいことがあります。ヒントとなる一文として、JCの「関東地区協議会」には以下のような宣言文、「関東地区宣言」というのがあります。

「わたしたちは日本の礎として あらゆる未来をみつめ 多様性溢れる仲間と共鳴し 新たな価値の創造により 新時代の旗手となることを誓う」

これもいつも唱和しているのですが、この「多様性溢れる仲間と共鳴し 新たな価値の創造」というところは、会社でも団体でも同じなのではないかと最近感じています。JCだけでなく、いろいろな、多様性溢れる企業や団体と共鳴、共感、共同して、新たな価値を創造していけば、まだまだ日本もおもしろいのではないかなと思っています。

「新たな価値の創造」(変革)を起こすというところで、経済学者のシュンペーターの言葉を借りようと思います。〈変革〉を起こすためにどうすればいいかという解説の中で、彼は「これまで組み合わせたことのない要素を組み合わせることによって新たな価値を創造する

こと」これを「新結合」と言っていますが、エジソンのように、ゼロイチで誰も発明しないようなことを生み出すことも大事ですが、実は〈変革〉とは既存のものと既存のもの、できれば遠いもの同士を組み合わせるだけでも新たな価値は創造できるのだ、ということを行っています。

この概念を地域課題に当てはめると、これまで組み合わせたことのない要素、これは「ひだかん」にも通じるかなと思うのですが、あらゆる会社、業種、個人の方々のノウハウや資源、アイデア、行動力、実行力等、いろいろなものを組み合わせれば、少子高齢化と言われているまちでも、まだまだ新たな価値がたくさん創れるのではないかと思います。そして、そのアウトプットを基に、解決できなかった地域課題も解決できるようになるのではないかなと思います。

時代と共に、時代が変われば、また新しい地域課題も生まれてきます。コロナ期にも新しい課題がたくさん生まれてきました。今、環境問題や貧困等、いろいろな問題がありますけれども、その当事者や周辺企業だけでなく、皆の知恵を結集すれば、解決できない課題は無いのではないかなと私は思い描いております。

冒頭申し上げた〈夢〉。繰り返しになりますが「ひだかん実行委員会」も私の商売もJC活動も全部通じてくるのですが、それらを通して地域課題を解決するビジネスをもっともっと増やしたい。それはより良いまちを実現するためであり、一人では成し得ないことも皆で協力すれば地域課題も解決できると考えております。

まとめですが、卓話を準備する中で、私の言いたいことが端的に表現されていたのが、馬場会長のこの言葉だなと思えました。

「希望を繋ごう～60期として新たな善いことをしよう」。RI会長の「世界に希望を生み出そう」。動画も拝見しました。

表現は違うかもしれませんが、仕事を通して新たな善いことを皆で実現すれば、地域課題は解決され、苦しんでいる当事者の方々は希望を生み出せるのではないかと、より良い未来を描けるのではないかと、思います。分断、対立する世界ですが、皆が手を取り合って、本当に善い世の中を実現すれば、より良い人生になるのではないかなと考えております。



● 5.26 飯能新緑ツデーマーチ



10km 完歩